

5. トピック1：

新型コロナウイルス感染症による がん検診への影響

国立がん研究センター
がん対策研究所 がん医療支援部
検診実施管理支援室

高橋 宏和

研究概要

目的

がん検診の受診状況やがん医療の受療行動における、新型コロナウイルス感染症の影響を検討すること

検討項目	担当	検討内容
がん検診受診者数	町井涼子先生 (国立がん研究センター)	・がん検診受診者数の月次データ (日本対がん協会、全国労働衛生団体連合会、聖隷福祉事業団、宮城県対がん協会)
がん罹患者数	奥山絢子先生 (国立がん研究センター)	・院内がん登録によるがん罹患数の推定
受療行動	松本綾希子先生 (国立がん研究センター)	・Webによる全国調査
	後藤温先生 (横浜市立大学)	・JMDCLレセプトデータおよびDPCデータ解析
	土岐祐一郎先生 (大阪大学)	・がん診療状況の調査検討
	佐藤靖祥先生 (がん研有明病院)	・がん診療状況の調査検討

統括:高橋宏和(国立がん研究センター) アドバイザー:祖父江友孝(大阪大学)

期待される成果

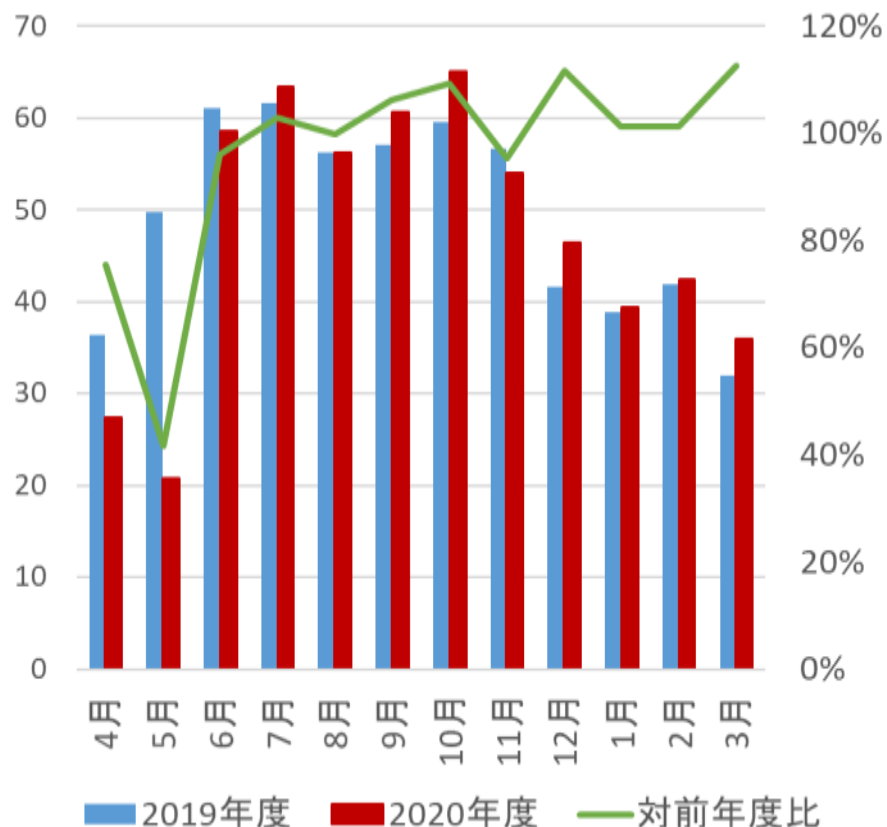
- ・がん検診・がん医療における新型コロナウイルス感染症の影響の現状把握・分析・評価および対応の提言
- ・「がん検診のあり方に関する検討会」および「がん対策推進協議会」への報告

がん検診受診者数の推移（聖隷福祉事業団）

がん検診受診者数

（5がん、住民検診＋職域検診、全年齢、男女計）

（単位：千人）



住民検診	受診者合計（千人）		対前年度比
	2019年度	2020年度	
胃がん	26.8	22.7	84.8%
大腸がん	43.3	40.5	93.6%
肺がん	55.3	48.6	88.0%
乳がん	13.4	12.1	89.8%
子宮頸がん	14.9	14.0	93.9%

職域検診	受診者合計（千人）		対前年度比
	2019年度	2020年度	
胃がん	95.0	93.1	98.0%
大腸がん	129.5	130.2	100.5%
肺がん	162.7	160.6	98.7%
乳がん	19.7	20.0	101.4%
子宮頸がん	31.9	28.6	89.7%

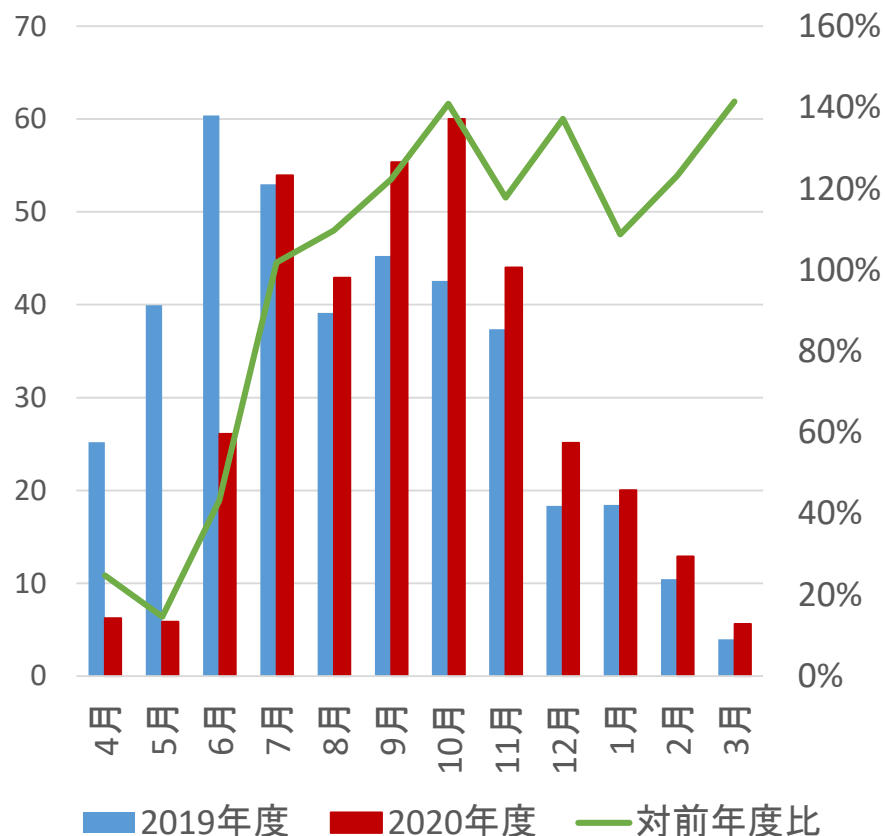
【検診方法】 胃がん：X線、内視鏡、大腸がん：便潜血検査、肺がん：胸部X線、乳がん：マンモグラフィ、子宮頸がん：子宮頸部細胞診。子宮頸がん以外：40歳以上、子宮頸がん：20歳以上

がん検診受診者数の推移（宮城県対がん協会）

がん検診受診者数

（4がん、住民検診＋職域検診、全年齢、男女計）

（単位：千人）



住民検診	受診者合計（千人）		対前年度比
	2019年度	2020年度	
胃がん	135.6	113.5	83.7%
大腸がん	84.0	81.3	96.7%
乳がん	38.7	34.9	90.2%
子宮頸がん	100.6	92.6	92.0%

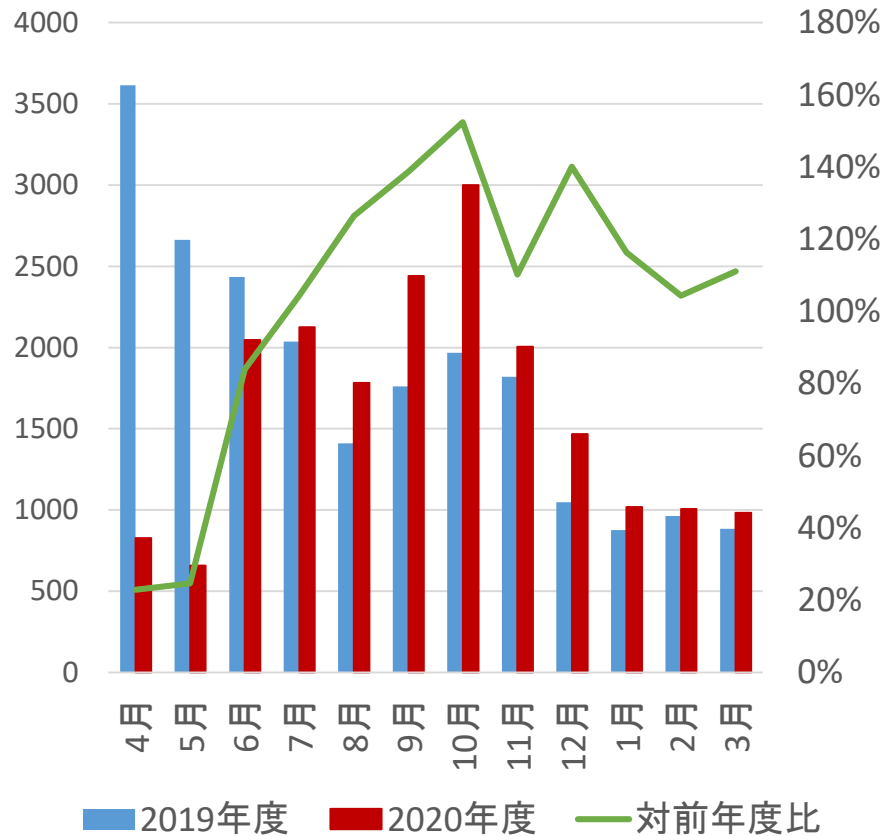
職域検診	受診者合計（千人）		対前年度比
	2019年度	2020年度	
胃がん	16.9	17.5	103.7%
大腸がん	5.1	5.1	100.6%
乳がん	4.1	3.9	96.4%
子宮頸がん	9.0	9.3	103.1%

【検診方法】 胃がん：X線、内視鏡、大腸がん：便潜血検査、乳がん：マンモグラフィ、子宮頸がん：子宮頸部細胞診。子宮頸がん以外：40歳以上、子宮頸がん：20歳以上

健診受診者数の推移（日本総合検診医学会、全国労働衛生団体連合会）

健診受診者数（全年齢、男女計）

（単位：千人）



	受診者数合計（千人）		対前年度比
	2019年度	2020年度	
事業者健診	9022.4	8706.3	96.5%
特定健診	2823.1	2500.7	88.6%
人間ドック	1198.8	1104.9	92.2%
学校健診	3747.1	3228.1	86.2%
その他健診	4686.3	3816.9	81.4%
合計	21477.7	19356.8	90.1%

※健診受診者数：事業者健診、特定健診、人間ドック健診、学校健診、その他健診の合計

まとめ

- 2020年4-5月のがん検診および健診受診者数は前年同月と比べ大幅に減少した
- 2020年6月以降は前年同月とおおよそ同程度に受診者数は回復した
- 2020年度のがん検診受診者数は、2019年度と比べおおよそ2割～0割減であり、職域検診に比べ住民検診の減少が大きかった